

概況

平成18年平均大分市消費者物価指数は、平成17年を100とした総合指数で100.3となり、前年に比べ0.3%の上昇となった。

近年の総合指数の動きを前年比で見ると、平成10年は天候不順により生鮮野菜が高騰したことに加え、消費税率引上げや9年9月の医療保険制度改正の影響が残ったことなどにより0.4%の上昇となった。11年は前年に高騰した生鮮野菜の値下がりに加え、電気・ガス代や工業製品の値下がりなどにより0.7%の下落と、平成7年以来4年ぶりの下落となった。12年は生鮮食品が値下がりしたことに加え、耐久消費財や繊維製品などの工業製品の値下がりなどにより0.4%の下落となった。その後も、耐久消費財や食料工業製品などの工業製品の値下がりなどにより13年は0.7%の下落、14年は1.1%の下落、15年は0.3%の下落、16年は0.1%の下落となった。また、17年は、前年に高騰した米類・生鮮野菜などが値下がりしたことなどにより0.3%の下落となった。

平成18年は原油高の影響などにより0.3%の上昇と、平成10年以来8年ぶりの上昇となった。

総合指数と前年比の推移

